



## 越前国絵図に 描かれた白山

この絵図は1685年(貞享2)、幕命により福井藩だけに作成が命じられた国絵図の控で、翌年の25万石への減封と関係があるとされます。作成にあたって、各村よりの上申をまとめた「越前地理指南」(松平文庫)などが残されており、ともに「国絵図」「絵図記」として後の地誌「越前国名蹟考」や「続白山紀行」などに引用されています。

松平文庫には、ほかに、慶長、正保、元禄、天保などの各年間に作成された国絵図がありますが、それらと比べても本図は白山麓周辺の描写に優れています。

全容が白く描かれた右ページ中央の白山には、南(図下)より別山、御前峰、大汝峰に鎮座する三所権現が記され、越前、美濃の禅定道が朱線で、また室堂などの建物も丁寧に描かれています。加賀側は室堂のみで禅定道は描かれていません。起点であった白山麓尾添村の越前側編入を意識しているともいえます。

谷峠越えに牛首にいたる道はもとより、今では廃道となっている大日峠越えに新保にいたる道や、杉峠越えに上打波(小池)に出る道が描かれており、白山麓の村むらの密接な繋がりを示しています。

また、これら谷あいの道に設けられた橋ごとに、幅、高さが記されていますが、その数字からは険阻で危険な通路のようすが伝わってきます。



■ 越前国之図(部分) 1685年(貞享2)  
松平文庫 福井県立図書館保管